まつのこゝろ

こくわの物

四編

春盛堂 書樵

假名垣魯文 作

錦耕斎芳虎 画

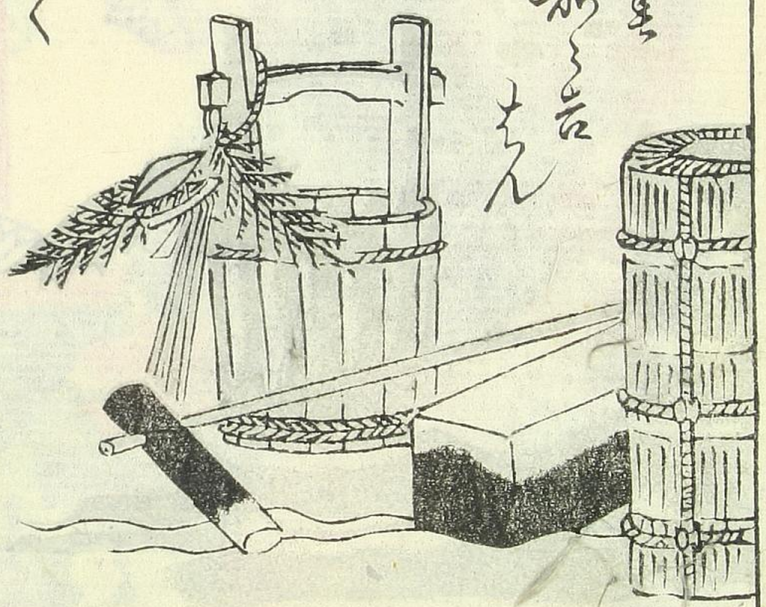
五葉亭

A396
6

栄

可吉利

四編上



48-7726

一

叙

余ガ當稗史ヲ著述ル起原ハ。年來花主主ガ青盛主人。観音參詣の帰路足弁天山の定席ニテ。南龍ぬしガ軍談の切ヲ聴ル張扇。それガ来地の種本ヲ。其侭生捕注文ナリ。僅作意ヲ混ヘ。婦幼童蒙ヲ與ヒたのしんと。當編ハ根の遂ぬ實録。こゝ出ス虚妄方便哺くといふ口繪の虎ガ抑ちふの盥觴ニテ。千里ヲ走る評判ハ覚束なくも看官ヲ。呼子鳥てふ

寅申
日輪を保護
天下泰
平なり
○今川治部大輔
源義基

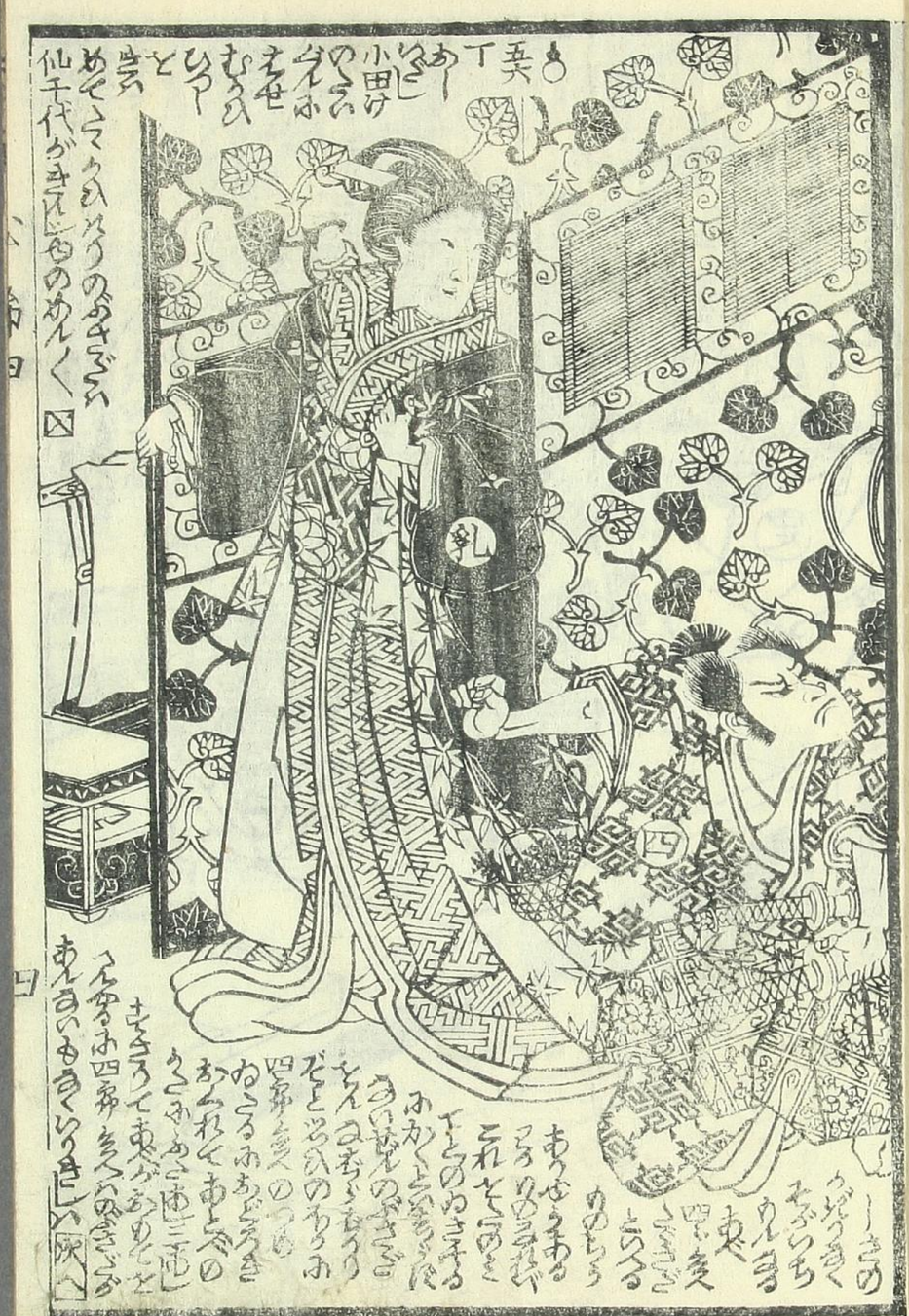
○織田上總介
平信長
○義基
嫡子
冠者
氏實

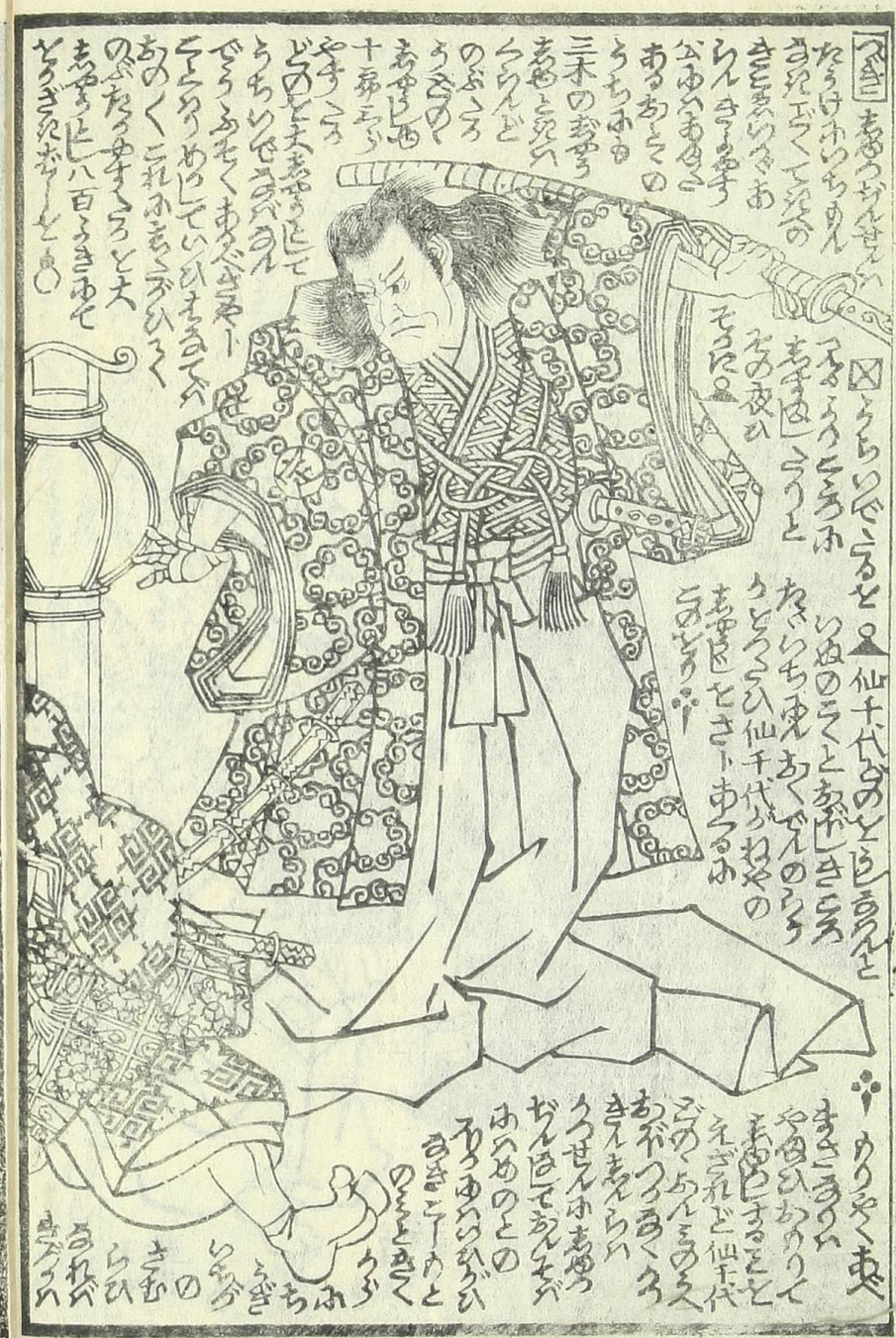
意ふて。繪組ふ由らふ様ふろふ。三本足らぬ毛作者だ図ひ。
脚色ハ小牧の小説風調。末長久を祈るのみ。物目
長篠ふ御高覧と。味方ゞ腹ふ同意なる。画工梓主ふ倍倶ふ。
冀ふい御代の徳若草史。追く次編ふ出らるだ〜せ。
開ごのちより著体ふ。難波戦記乃よ〜ひ〜せ。
わくの川ふ山と海ふろ御陣。千秋萬歳ふ〜ぜ。
お家ふ市をさのゆるふで。古見ふ〜ふく
おんとゝめて。呉竹ふ姫〜く白ふ

明治四未歳
新板發兌

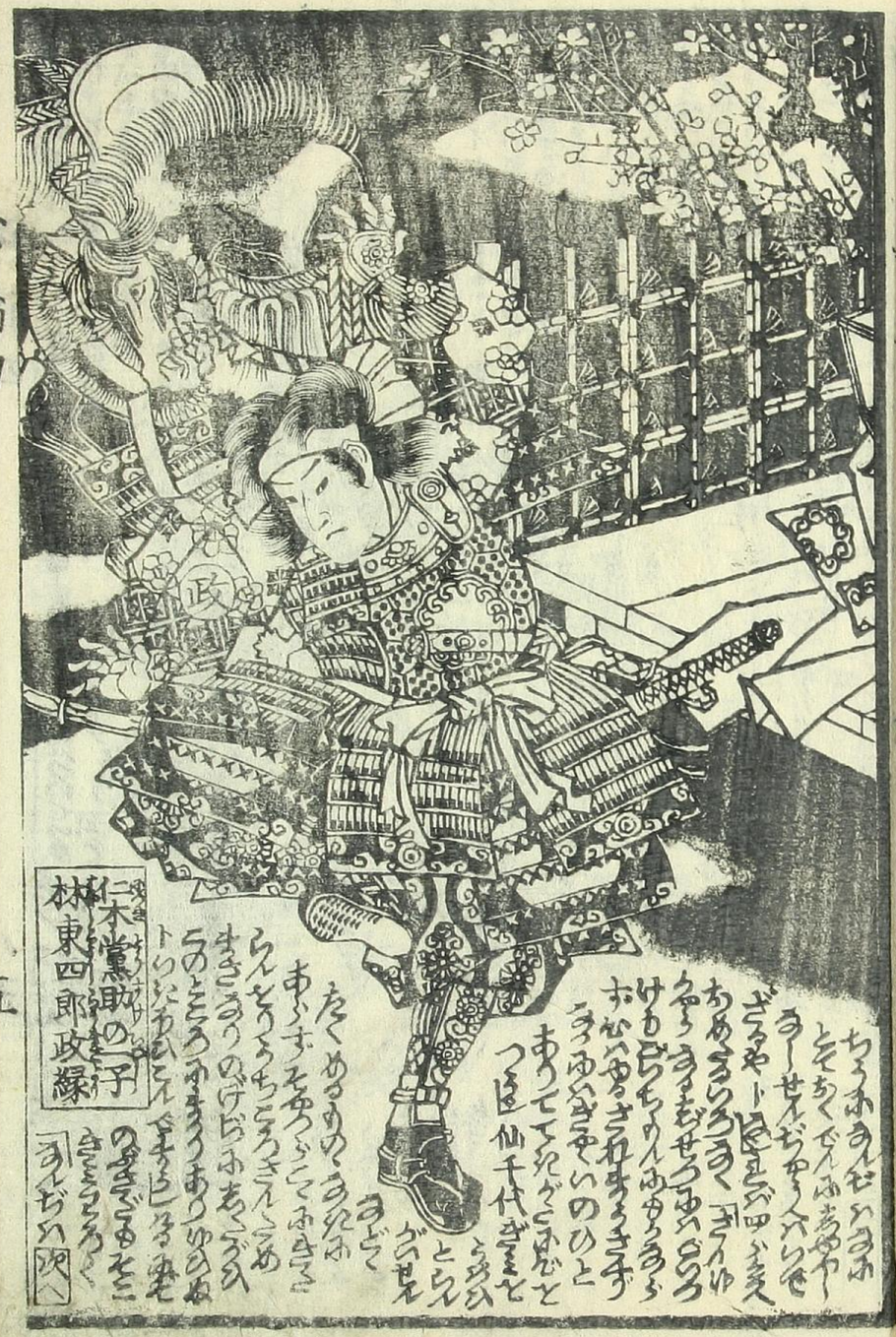
假名垣魯文誌

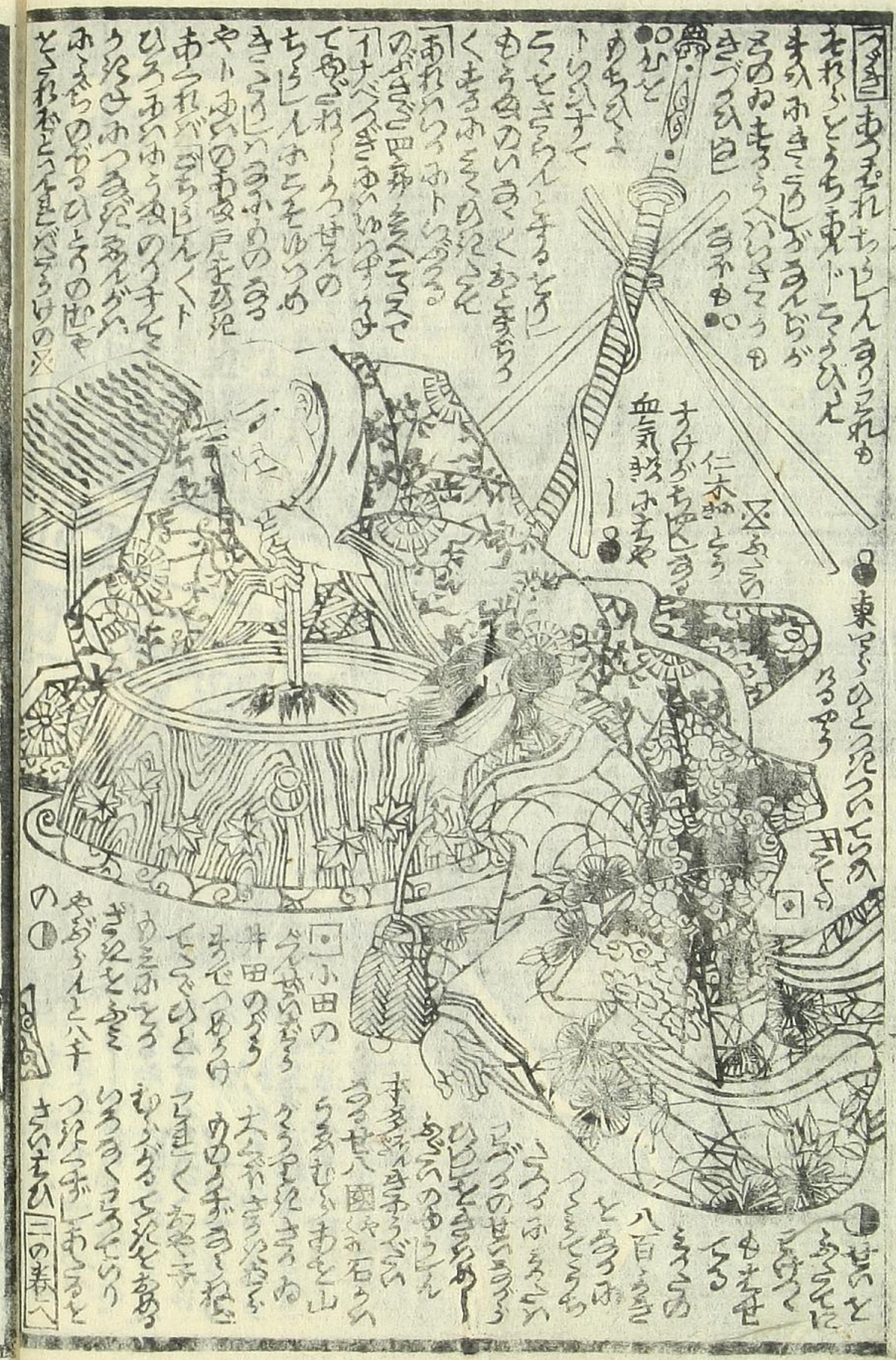
○新田ふ義つ出らるを
「元ふ」の出らふ出ふる
ひとふをひらく〜ふ田
ちるもあ「元ふ」のちー
らふふつ〜ふ三ふの
出らふ三ふのふ〜ふと
つ〜ふちふふ〜ふ四ふの
出らふふ〜ふ〜ふ五ふ
のち〜らふのふふ〜ふ
天ふの出らふふ〜で
ふ〜ふ〜ふ〜ふ八ふ
の出らふのふ〜ふ
九ふの出らふふ〜ふ
ふ〜ふ千ふの出らふ
ふ〜ふふのふ〜ふふ〜ふ
ふ〜ふ〜ふ出ふ〜ふ
ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
ふ〜ふ〜ふ〜





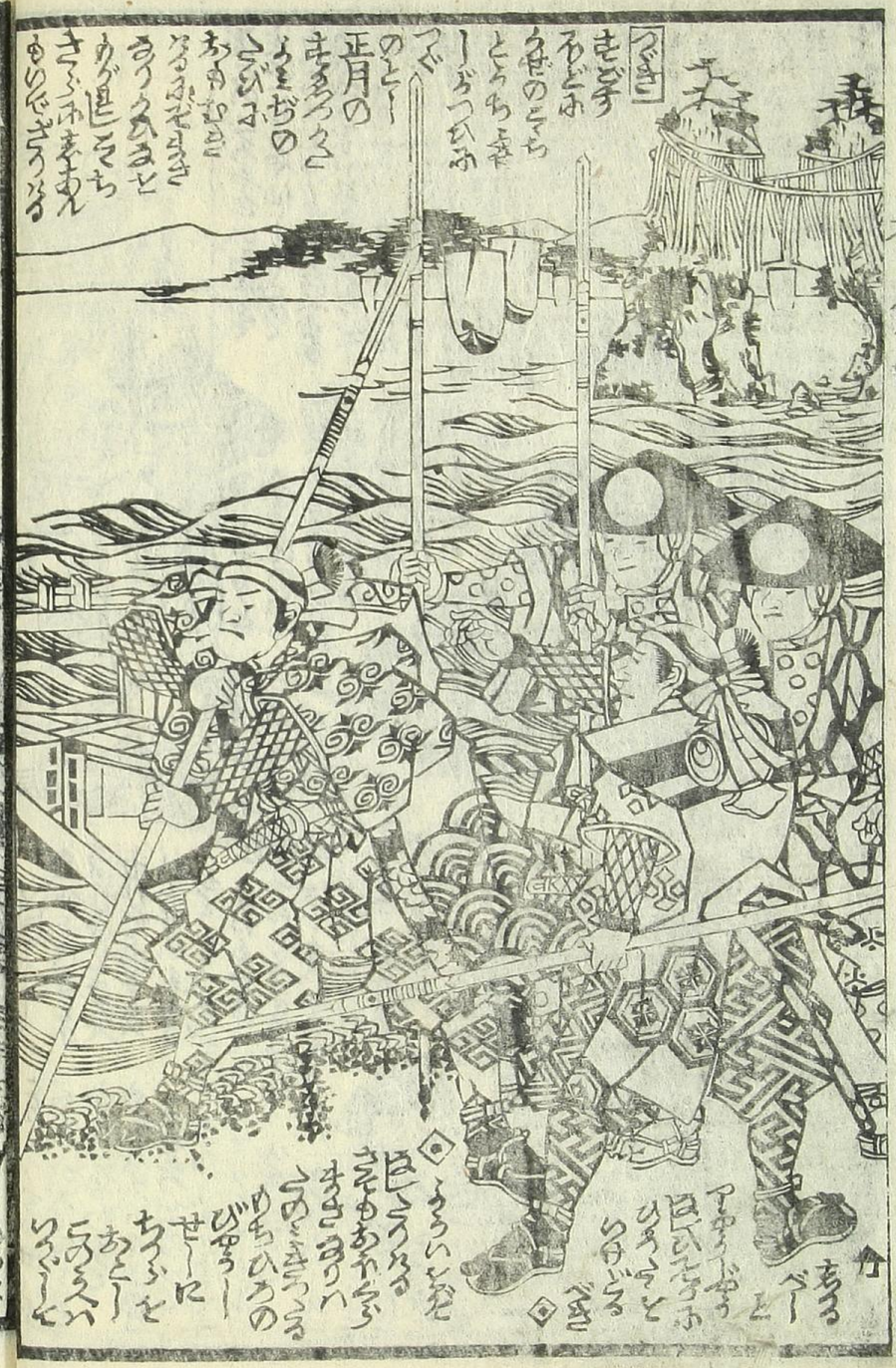
四
定
ぜんのまつさの

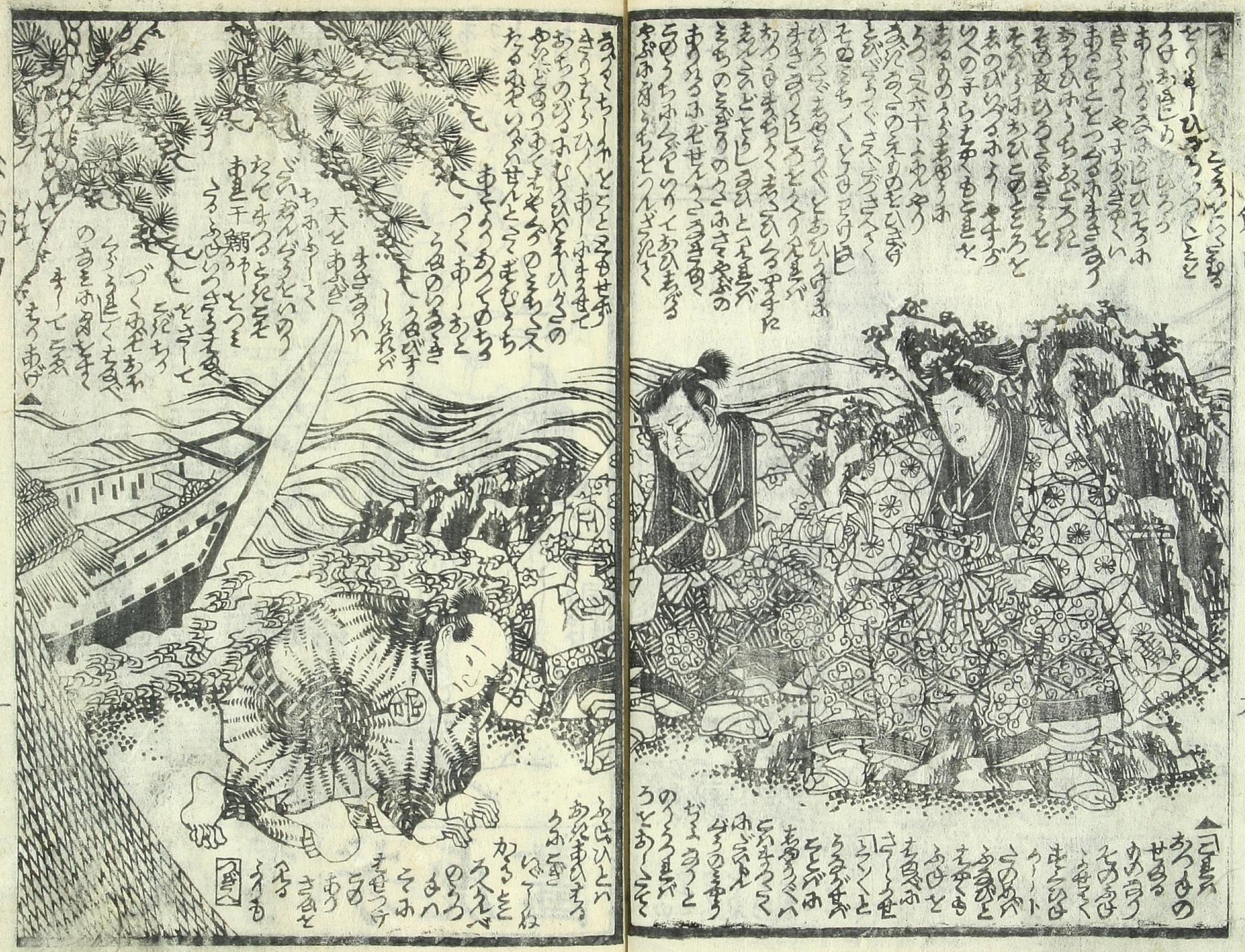

政
二木黨助の子
林東四郎政綠



つゞき
仙千代
正
横
田

仙千代
東條弥
神戸
小身
田





魯文著　芳虎畫

假名文庫　いろは節要　初編より十篇まで　山々亭有人作　歌川国重画

娘庭訓黄金鶴　五編揃　山東庵京山作　梅蝶楼國貞画

繪本太豊記　初篇　二篇　三篇　孟齋芳虎画

繪本太閤記　初編より追々出板　孟齋芳虎画

地本問屋　西國米澤町　加賀屋吉兵衛

四緑
下

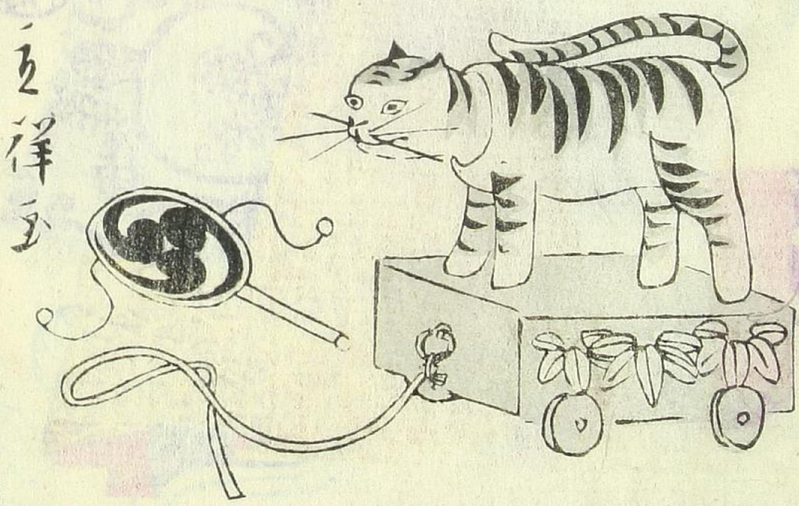
徳美譚

四編下

魯文作

孟斎画

青盛文庫



三の巻より

鎌庖丁
鉄小刀

鍛冶師

高坂五郎兵衛

鍛冶と鉄工と誤ること

古し故に暫く俗習のまゝ

鍛冶
高塚

朝

四

五

信定の妾

信定

廣忠
主従
今川家の
使者朝比奈
小集と出迎と

玄洋筆
朝

極餅四
つき
のぶさだ
ぶんぐん
ひろぐんて日夜
しぜうこれ
きき
せろ
一のらうどう
ぞ
さそもそ
のたべ
風呂屋寺参詣道
▼あまひ
のちぞ
おひ
とく
けぬ
さう
えんご石川の
ふむ
ちか
ねこ
ごう
えん
いの
ねど
きち
ふん
のつ
ふあ
十八

公帝四
さらら井へ
ふけさろ
かとちら
ふらうの
さざあ
あとろき
あろそ
いろか
せんと
ろろ
ささ
ヒき
さく
ら井
のまろ
のくと
もあぐ
くふあち
る
とそも
そろぎた
ふらろと
だうあいと
あろひあが
いのちろ
とゆされ
ろうこのとまる
がふちろん
あるゆ〜
ものあわの
ふ
◎えろき
あさひあ
小ぎいとど三
ろふさ〜ぬけ
てろこび
ちぞの
見る
十九

○天文十一
壬寅年
十二月廿
六日寅の
一天徳若
丸誕生
の図

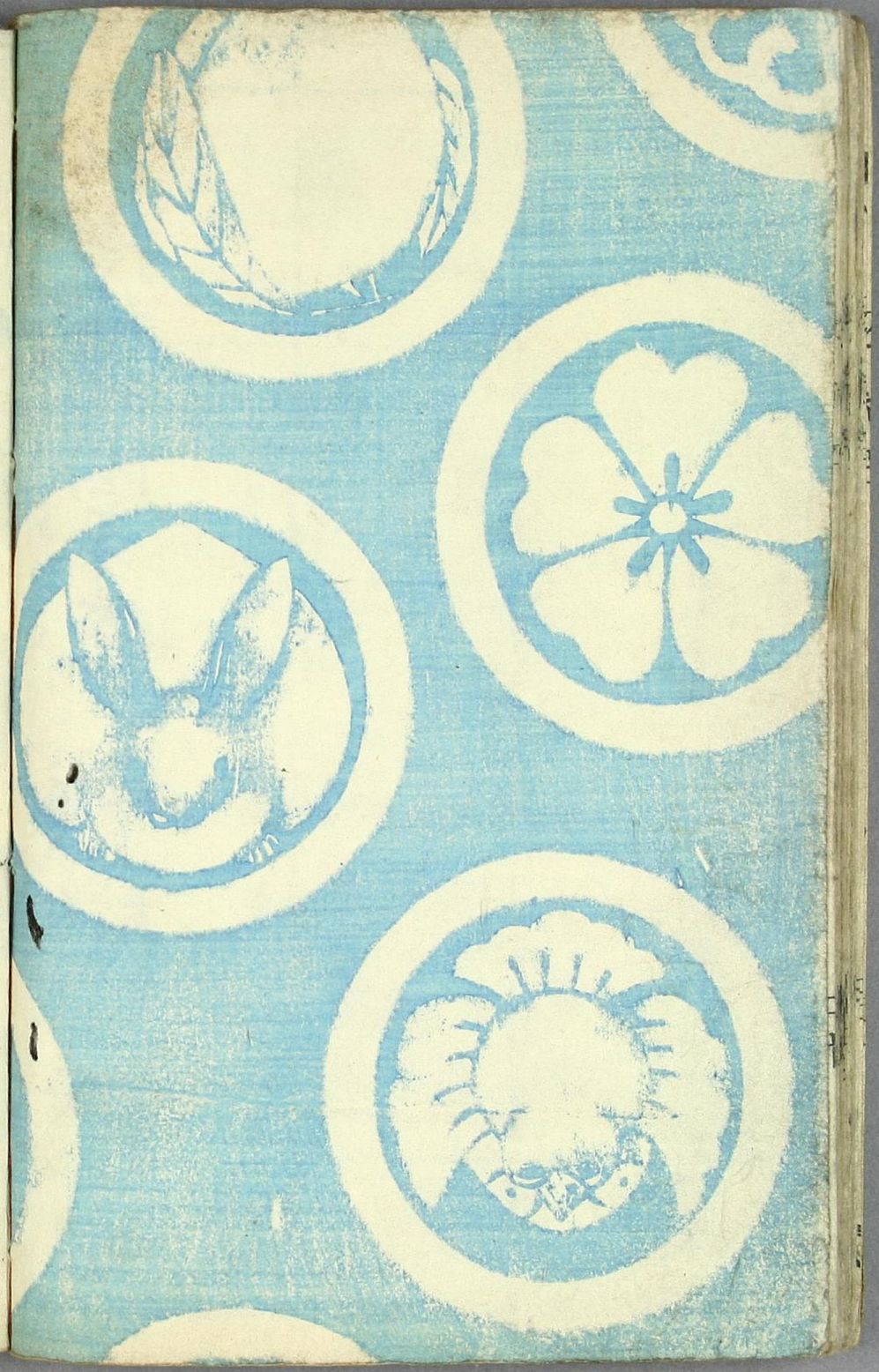
かくてひろうで
ひろいけの
はぢあらう
西条殿のさう
うさとりけどうて

するだに
をこ
ろうの
やひやき日
のの
そ
ぬる天文十年
二月
廣
そまさのむすめ
そまさのるとらるを
めとりやう
らのとの
のやしの
ぐんれう
て

墓目の役
石川清兼

○作者曰
此日と綴る
とう推るふ
時い庚午の
十二月廿
六日夜と
最り不
思議
の因縁
あらず

新増補西國奇談　十八編　十九編　廿　爲永春水作　孟齋芳虎画
緣林娘白浪　六編　七編　八編　假名垣魯文作　孟齋芳虎画
隅田川標柳　四編　五編　六編　柳亭種彦作　山々亭有人編次　孟齋芳虎画

地本問屋　西國米澤町　加賀屋吉兵衛

010190518456